

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	同志社女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ドウシシャジョシダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F126310107573
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	京都府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	インターンシップII
	学部・研究科等名	表象文化学部日本語日本文学科
	担当教職員名・役職	山本 由紀子:准教授
	受講者数実績年度	令和5年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	1
	受入企業等数	1
	受入企業等名	(公財) 京都日本語教育センター
	産学協議会の整理上の類型	3.タイプ3 (汎用的能力活用型インターンシップ)
	キャリア形成支援活動の分類	7.高学年(大学3年次~4年次程度)又は修士課程学生を対象としたキャリア形成支援活動
上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容 1-3.上記回答内容に関する詳細	日本語学校の事務作業の補助に主に従事した。また、分校開設に伴う各種作業補助のほか、業者との打ち合わせにも同席する機会を得た。さらに、通常の授業の見学や、各種交流イベントの準備・参加の場、理事長・校長・日本語教師との交流の機会も与えられた。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	3.当該キャリア形成支援活動は、専門教育科目として実施している 5.当該キャリア形成支援活動は、選択必修科目として実施している 8.当該キャリア形成支援活動は、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部3年 大学 学部4年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	3年次以上を対象に、夏期休業期間中の10日間の体験実習を日本語教育分野科目の一環として「インターンシップII」として実施している。本科目では、学生を総合的に評価し、2単位を付与している。

項目	確認事項	届出内容
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	インターンシップの就業体験実施中に、定期的にメール等で活動状況の確認を行った。また、受け入れ企業の校長にお会いし、活動状況等を伺った。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	事前指導前に受け入れ先企業の理解や、インターンシップ参加の動機・ねらいの言語化を目的とした事前課題を与えた。本科目担当者は、インターンシップへの参加に当たり必要な心構えや行動に関する注意、事後指導用の課題をまとめた配布物を作成し、事前指導授業時に指導を行った。インターンシップ生には、事前課題に基づく発表を行わせた。授業は1回、
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	事前指導時に提示しておいた課題に基づき、活動報告およびねらいの達成度の自己評価、振り返りを目的とした発表を行わせた。その上で、インターンシップ期間中の個別の経験を通して考えたこと、知ったことなどを掘り起こし、インターンシップ生の進路決定への材料となる事柄の明確化を行った。事後指導授業は1回。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	10日間のインターンシップ期間中に、2回メールおよびLINEで活動状況確認のための連絡を行った。また、受け入れ企業の校長とお会いし、活動状況や問題の有無を伺った。
要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	事前課題、事後レポートにより効果を定性的に確認している。

項目	確認事項	届出内容
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	10日間
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	科目担当者による事前指導及び事後指導を各1日実施、実習先において、8日間以上の実習指導を行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	インターンシップ参加者が主に日本語教育を専門に学ぶ学生であり、将来的に日本語教師になることも視野に入れている点を考慮しプログラムを設計していただいている。具体的には、実習が企業での特定部署での事務作業のみで終始することなく、経営者や日本語学習者、日本語教師との接点を得られる活動や作業機会も確保できるようにしている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://kyomu-web.dwc.doshisha.ac.jp/cam3/slbsbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=1&value(kougicd)=236460&value(crclumcd)=
問い合わせ先	大学等名	同志社女子大学
	担当部署名	表象文化学部・文学研究科事務室（日本語日本文学科）
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	075-251-4106
	メールアドレス	nichi-i@dwc.doshisha.ac.jp